

第25期 科学者委員会 学協会連携分科会 第6回分科会議事要旨

1 日時 令和4年3月16日(水) 10:00~12:00

2 場所 オンライン会議(ZOOM ウェビナー)

3 出席者

(委員) 米田 雅子、望月 眞弓、溝端佐登史、丹下 健、勝野 正章、若尾 政希
北川 雄光、熊谷日登美、小林 武彦、小松 浩子、高田 保之、
田近 英一、中野 義昭、山口 周、川口 慎介、高倉 喜信

(報告者) 関 礼子

(傍聴者) 委員会・分科会の各委員長、学協会連合等 42名

調査に協力いただいた学術会議の委員会・分科会の各委員長、学協会連合等のアンケート調査票の記述者に、本委員会をご案内し、傍聴して頂いた。

(事務局) 大山研次、森田健嗣

4 議題

「日本学術会議と学協会連合等との連携に関する調査」報告会

(1) 調査結果の概要報告

米田委員長より、資料1にもとづき、部役員会・委員会・分科会と関連学協会連合等に対して実施した「日本学術会議と学協会連合等との連携に関する調査」結果について報告があった。3部、30分野別委員会、6分科会、44学協会連合等から回答があり、調査結果は「記録」として日本学術会議のウェブサイトに掲載されている。

(2) 学協会連合等の取り組み紹介

社会学系コンソーシアム理事長の関礼子連携会員(第一部)と一般社団法人看護系学協会協議会前会長の小松浩子会員(第二部)、公益社団法人日本地球惑星科学連合会長の田近英一会員(第三部)から、それぞれの資料(資料2~4)に基づき、学協会連合体の設立の経緯や日本学術会議との連携を含めた活動について紹介があった。

(3) 意見交換

学協会連合等を設立し活動することの意義をいかに学協会や研究者に理解いただくか、連合等を運営するための体制や財政の課題、学協会会員の減少傾向が続く中で連合等の役割、海外の学協会連合等との関係、社会的課題の解決に向けての社会との連携、日本学術会議や関連分野の大学・協議会等との連携活動などについて意見交換を行った。

5 その他

米田委員長より、分野横断型の学協会連合等の事例紹介を次回分科会で開催する予定であることが紹介された。